

英語学校について

ー授業について

高校生クラスはやっぱり年齢が近いのもあって、みんなフレンドリーですぐに溶け込むことができました。

クラスの16人中13人は中国人で、残りは日本人の私と同年のスイスから来た女の子と、ドイツから来た男の子でした。英語を学びにきた私としては、この時期に日本人が私だけという状況はすごくラッキーと思いました。

授業は主にリーディングとスピーキング（プレゼン）の繰り返しでした。2時くらいには学校が終わるので、たまにクラスメイトと一緒にcityへ行き、ショッピングしたり、ナイトマーケットに行ったりしていました。たまに学校にある小さなジムで友達と体を動かしたりもしました。たった6週間でしたが、すごく濃い時間だったと思います。

お互いがそれぞれの学校に行ったあとでも、たまに休みに会ってご飯を食べながらお互いの学校生活を話したりしました。



ーエクスカージョンの思い出

高校生組のエクスカージョンも1度あったのですが、語学学校内の希望者で行くゴールドコーストへのエクスカージョンの方が記憶に残っています。ずっと行きたいね、と同じクラスのスイス人の女の子と話していた時にこのお知らせがあったので、2人ですぐに申し込みしました。

高校生の参加は私たち2人だけでしたが、すぐにTOEFLクラスにいたスペインからきたお姉さんたちと仲良くなり、一緒にゴールドコーストを観光しました。1人では絶対に行けない場所だったので、行くことができるとても嬉しかったし、ゴールドコーストの雰囲気には圧倒されました。

ーホームステイ

今までにホームステイは2度経験がありましたが、ルームメイトがいるホームステイは経験がなかったので、少し緊張していました。

ホームメイトは私の他に中国人の女の子1人、ベトナム人の女の子が2人の3人で、みんな同じ英語学校に通っていました。みんなとてもフレンドリーで家もホストマザーしかいない家だったので、女子寮みたいな感じでとても楽しく、緊張もすぐなくなりました。

クリスマス後にオーストラリアへ着いたので、大晦日にベトナム人の2人と新年のカウントダウンに行ったことも、留学の楽しかった思い出の1つです。新年を迎えた瞬間の豪華な花火と、オーストラリア人ならではの盛り上がりの雰囲気がとても好きでした。



左：1番年齢に近いベトナム人のルームメイトと野外のナイトムービーに行った時

右：中国人のルームメイトと火鍋を食べに行った時

高校について

—授業について

日本の高校とは違って、10年生は必修科目の5教科の他に自分の興味のある専門教科が2教科、学期ごとに選べるので私は前から興味があったビジネスマネージメント（以下ビジマネと略称）の授業を選択しました。ビジマネはVCEの科目だったので、10年生と11年生が一緒になって授業を受けました。日本みたいに先輩、後輩という隔ても全くないので、みんなフランクにグループワークなどをしたので、日本の教育しか受けたことがなかった私にとっては、とても新鮮な授業スタイルでした。少人数でやるのが基本的な授業スタイルなのですが、この教科は20人ちょっとで少し多い方でした。ビジマネでは基礎的なことを学んだら、自分のビジネスプランをみんなの前でプレゼンし、また戦略などを学んだ時には、実際に企業に電話やメールで質問したりもしてとても面白く、いい経験になりました。

もうひと科目は私は少し遅れて入学したので、これしかないと言われ、「Joy of Math」という数学系の教科をやりました。そこではマインクラフトでEITHAM Collegeを実際に作ってみたり、3人チームになり、数学に関する動画を作り、コンテストに出したりなど日本では絶対やらないようなことをやったのでとても楽しかったです。

私の留学した学校は毎週水曜日の午後は10年生と11年生合同で、スポーツがあり、他校と試合をしていました。

私はスポーツが得意な方だったので、積極的に参加しあまり関わりのない11年生ともたくさん交流しそこで友達をかなり作ることができました。そこで思ったのは、何か強み（得意なスポーツ・楽器・歌）があると現地のこと交流するきっかけになり、仲良くなれるので大事だなと思いました。水曜日のスポーツの時間だけでなく、たまに希望者を集めて学校として外の大会に出たりすることもありました。私はサッカーが得意だったので、サッカーの大会には手をあげ、ありがたいことにMVPなども取ることができました。また、とにかくサッカー好きをアピールしていたので、体育の先生から声をかけていただき、Aリーグ（日本でいうJ1）のチームのコーチから男子と混ざって練習するととても貴重な経験をさせてもらいました。そこで男子とも一気に距離が縮まりました。

私は主にスポーツ面で積極的に課外活動に参加して、現地の友達と交流していましたが、フランスから来た同学年の留学生の女の子は、毎年開催している希望者生徒によるミュージカルに参加していて、現地の友達と仲良くなっていました。



Eltham College (エルサム カレッジ)

メルボルン中心地から約30km北東のエルサムにある学校です。広々としたキャンパスで、ジュニア・スクールからセカンダリー・スクールの学生が学んでいます。充実した施設が特徴的で、勉強だけではなく、スポーツやアクティビティも盛んにおこなわれています。

また、留学生の受け入れにも積極的で、国際的なカリキュラムや留学生用に行われる授業も取り入れています。

大学進学にも実績があり、2018年には留学生の14%が統一試（ATAR）で90ポイント以上を獲得し、留学生の60%以上が第一希望の大学に進学しました。

ーボランティア

私は学校のプロジェクトの1つである、1ヶ月中米のグアテマラの貧困な村へ行ってボランティアをするという行事に参加しました。

ボランティアに行った期間は11月下旬から1ヶ月でしたが、寄付金を集めるためにオークションを開いたり、自分たちがケーキやクッキーを作り、販売したりなどのイベントを行いました。新学期（2月）から毎週1回の中休みにミーティングがあり、イベントについてやグアテマラについての注意事項など着々と準備をしました。

向こうでの最初の2週間はベリーズでシュノーケリングをしサメと一緒に泳いだり、ATM洞窟やグアテマラでマヤ文明のティカル遺跡を見行ったりして、環境に慣れるようなスケジュールでみんなとの仲を深めました。20人ほどで行きましたが、全員10年生だったこともあって、チームワークは出発前からかなりできていました。私にとって何人かは全く交流がなかった子がいましたが、このプロジェクトで一気に仲が深まりました。

ボランティア活動の2週間は、テレビで見ていたような貧困な村でした。子供達は裸足で遊んでいて、家は手作りの木の家で、洗濯やお風呂は川でした。

活動内容は主に2つで、1つは雑草抜きから始まり、ゼロから現地の大工さんと一緒にブロックの家を建てる。2つ目はすでに建てられたコンクリートの家にセメントを塗る仕事でした。家をイチから建て、完成した時の達成感は今までに味わったことがない感情でした。また、その家に住む家族たちからもたくさん感謝され、このプログラムに参加してよかったなど改めて思いました。

グアテマラではスペイン語が主流で、特に村では英語など全く通じなかったけれども、子供たちとみんなですれ少し準備していたスペイン語で交流しました。村の皆さんはホスピタリティーに溢れて本当に暖かい人たちばかりで、環境的、身体的には楽ではなかったけれども、すごくいい経験になりました。特にボランティアと一緒にいった子達とは夜に深い話をしたりと本当に仲良くなれ、メルボルンに帰国し、みんなと別れる時には寂しくて少し泣いてしまいました。またこのプログラムから貧困や子供の教育制度についても考えるようになりました。



現地での生活

ークラブ

上記に書いた通り、私は小さい頃からサッカーをずっとやっていて、留学してもやりたいと思っていたので学校の授業の他に近くのクラブチームでサッカーをやりました。基本的にはU18でプレーしていましたが、たまにその上のリザーブとしても試合に出たりしていました。

日本でやっていると経験できないフィジカルなサッカーを経験したので、自分のサッカーのスキルも少し上達したと思います。また、やはりスポーツを通じた方が仲かが深まる方が早く、うまく言葉で伝えられない時もあったけれども読み取ってくれて交流することができたし、週末などに家に遊びに行ったりして、正直、学校の友達よりも仲良くなりました。



ーアルバイト

私はボランティア活動に参加した際、出発する前になんでもいいから自分でお金を稼ぐという課題があったので、友達と一緒にカフェでバイトをしました。学校ではなかなか使わない英語なども新たに吸収することができ、またテーブルマナーやコーヒーの入れ方なども学びました。

バイトをすること自体初めてでお客さんとの気軽な会話をすることはとても楽しかったけど、新メニューの開発に携わったりもして、いい緊張感もあって勉強になりました。

ー苦労したこと

苦労したというよりはいい思い出ではないのですが、人種差別を受けたことがありました。

日曜のお昼にバス停でバスを待っていた時、見知らぬ1人のおじさんが私を中国人だと思い、「この国から出て行け」と怒鳴りました。

無視していると「聞いているのか」とさらに怒り、空き缶を投げつけてきました。これをインスタのストーリーに投稿したら、みんなが優しいメッセージを送ってくれて、留学生の担当のフランチンからすぐに電話がかかってきて、翌日には警察署と一緒に同行してくれて、届け出を出しました。学校のサポートも手厚く、みんなも心温かい人たちばかりだったのですごく安心しました。

ーホームステイ

ホームステイに関して私はすごく当たりだと思っています。

ホストマザー、ホストファザー、大学生のホストシスター、ブラザーがいました。ホストブラザーが2月まで熊本で日本語留学をしていたので、すごく流暢に日本語が喋ることができたり、書けたりすることができるくらいのレベルでした。日常会話は英語で会話していますが、たまに彼の大学の日本語の課題を手伝ったりしました。また、私がサッカーのクラブチームに入るにあたって、練習が7時から9時とよる遅いため、送迎が必須だったのですが、ほとんど毎回送迎してくれました。またシーズン中の6ヶ月間は毎週日曜日に試合があった際も、試合会場まで毎回送ってくれました。たまに片道車で2時間もする場所もあったのですが、嫌な顔1つせず送り迎えしてくれたので本当に感謝しかありません。また、BBQが好きな家族だったので、よく週末にホームパーティーをして、オーガニカルチャーを体感していました。また、偶然にもホストブラザーと私の誕生日が同じ日だったので、日本食レストランに行って、友達を呼び、盛大にパーティーを開いてくれたのもいい思い出です。

あとはスポーツが好きだと言っていたので

Aリーグの試合に連れて行ってくれたり、

AFLの試合にも連れて行ってくれたりしました。

